

ぼくが思っていること

油繩子小 五年 菊池きくち 洗倫せんりん

ぼくの祖母は、五年前に亡くなっ
 たけど、ぼくが生まれたころ、病気で足が不
 自由になっ、て車いす生活を送るようになっ
 たので、ぼくは、車いすは身近にある乗り物で
 した。小さいころ、祖母と出かける時は、祖
 母のヒザの上に乗リ、祖父に車いすを押し、
 もらったり、ぼくが祖母の車いすを押し、た
 りました。

そして、現在は、祖母の車いすを押し、い
 た祖父が、数年前に脳こうそくと言病気に
 なり、左半身が思うように動かせなくなっ、て
 しまいました。

ぼくの身近な家族で、不自由な生活を送っ
 ていた祖母、そして、現在、不自由な生活を
 送っている祖父を見て、思ったことがあります
 す。

祖母の家は、ハリアフリーの家だ、たの
 で良かったけど、一緒に外出してみると、身

体の不自由な人に親切な世の中になっただけ
まだ不便な所があります。

一つは、障害者用駐車場のスペースです。

まだ隣の車とのスペースがせまい所が時々あ

ります。祖父母が車から降りるのに苦労した

時が何度もありました。次に、お店の出入口

にあるマツトです。きちんと固定されてくれ

ばいいのですが、固定されてないし身体の不

自由な人は、つまづいて、めくりあがり、転

倒しそうになりたり、車いすでは、マツトが

車輪にまきつき身動きがとれなくなったりし

ます。それと、歩道も、今でも段差がある所

があるので、改せんとしてほしいです。

そしてもう一つ。健常者の人が、身体の不

自由な人に対する心のバリアフリー化を求め

ます。まだ日本は、身体の不自由な人にやさ

しい世の中ではないです。もう少しやさしい

世の中になつて、たがいに支え合い、心のバ

リアフリー化が進んでくれるとよいな。と

ぼくは思っています。心にバリアフリーを!!

菊池 洗倫